

おぼろげにらいてうの会ニュース

らいてうの家10周年記念シンポジウム
大いに盛り上がる 上田市真田町



NPO平塚らいてうの会は8月28日、真田中央公民館で「地域に根ざし 平和とくらしをまもる」と題するシンポジウムを開きました。パネリストは上野千鶴子さん、古田睦美さん、米田佐代子本会長（兼コーディネーター）。参加者は会場いっぱいの約500名。真田の地での大成功は、講師の素晴らしさとともに、平塚らいてうという人間の魅力でもあったと思われました。

はじめに米田会長から「上田地域の歴史を振り返ると女性の活動が盛んだった。『青鞥』への参加者も出ていた。しかし今、地域は高齢化し、一人暮らしが難しくなっている。どうやって地域でみんなが手を取り合って生きて行くか、それにはどうしたらよいか。そういう思いからお二人を招いた」という趣旨説明があり、上野さん、古田さんからお話を聴きました（以下2面に続く）。

「らいてうの家」の目の前に太陽光発電計画 地域ぐるみで反対へ

オープン10周年でにぎわうらいてうの家に、とんでもない難題が―道路一つ隔てた草地―帯2万平方メートル余に、なんと太陽光発電のソーラーパネルをずらりと並べるという計画を、こともあろうに隣接ホテルの所有者が持ち出しました。国立公園内の計画として「上田市初のケース」です。この通りになったら、らいてうの家の周辺は、景観だけでなく私たちが大切にしてきた山野草をはじめわたり蝶で有名なアサギマダラや野鳥たちの生態にも影響があるのでは、と心配されています。

発行
平塚らいてうの会
〒112-0002
東京都文京区
小石川
5-10-20-5F
TEL・FAX
03-3818-8626

る行為として全国で反対運動が起っています。特に今回は海外資本による投資会社からみ、表面上は「ホテルで使う重油の環境負荷を減らす」と言っていますが、実は重油使用はそのままにして売電する営利事業です。

現地は日本百名山の一つ四阿山の登山道でもあり、真田町にあって来年初建1300年を迎える山家神社奥社への参詣路にもなっています。上田市水道の水源もこの地域です。現地の居住者や別荘自治会はもとより、地元の自治会や山家神社、隣接薬草園を育ててきた方がたなど、地域住民のみなさんが「ここは地域にとって大切な土地」と反対の声をあげています。上田市の9月議会では、3人もの議員が太陽光発電問題に言及、「国立公園内の開発」についての市の対応策や「市として規制条例をつくるべき」という質問が出ました。



らいてうの家の向かい。パネル設置予定地前の反対看板 8月27日フエスティバルにて

地元選出の市議・県議さんも党派を超えて反対、8月の日本母親大会や9月の長野県母親大会でも会員の訴えに大きな反響がありました。

らいてうの会は、いち早く「この計画は自然といのちを愛したらいてうの精神そのものへの挑戦」として反対の意思表示をしました。これから地域ぐるみで計画の白紙撤回を求めて運動したいと思えます。詳しくは別紙をご覧ください。ぜひお力添えを！

(米田佐代子記)

(一面からの続き)
上野千鶴子さん…「選択縁」の提唱

らいてうの家10周年、おめでとうございます。らいてうさんは不思議な人で、若い時には誰かと一緒に何かしようという社会性はなかった。『青鞥』を出したら世のオヤジたちからバッシングされ、それで世の中はこういうものかと社会に目覚めた。今生きていたら、私と仲良くなっていると思う。

今年女性が参政権を持って70周年。らいてうさんは、政治的権利というよりも子どもを大事にする母性保護実現のために女性参政権をという考えだった。そこからはじまるらいてうの協同組合思想は、女も家に閉じ籠っていないで台所を社会化し、相互扶助による協同社会をつくろうというのだ。1930年消費組合「我等の家」を設立した。「共同」と「協同」の違いは、「共同」は同じ仲間の集まりで「協同」は異なるものの組み合わせ。今、「地域の助け合い」というが、かつてのムラ社会のようにみんな同じと強制されては息が詰まる。そこで提唱したいのが「選択縁」で結ばれる社会。選択縁とは、血縁や地縁といったのびきならないつながりではなく、加入も脱退も自由で、自分の意思でつながる「支え合いのネットワーク」のことである。

たとえば今、公的なデザイナーズや介護施設に入るには介護認定で線引きされるが、「地域のお茶の間」(コミュニティカフェ)にはだれでもやってくるお茶を飲んで、楽しく過ごせる。超高齢社会になって4世帯に1世帯は一人暮らしにな

り、みんな最後はおひとりさま。長い下り坂を降りている。しかし2007年に「おひとりさまの最期」を書いてから2015年の「おひとりさま」と、8年前は家族がいないと自宅で見取ってもらった「在宅死」は無理だったが「支え合いネットワーク」が広がるなかで、おひとりさまでも最期まで在宅で過ごせるようになった。「家に居たい」は年寄りの悲願なのに、家族に迷惑をかけたくないから施設に入るといふ高齢者が多いが、「ばあちゃんはどうしたいの?」と、本人の意思を大事にしたい。それが当事者主権。らいてうさんの「協同」は、自分たちで欲しいサービスをづくり出す消費者運動としての協同組合だった。

―元始、女性は実に太陽であった―すごい言葉ですね。100年経っても色褪せないですね。

古田睦美さん…翼が生えたように自由に生きる
自由とはくびきから解放されること。新しいつながりを作る社会に納得のいく働き方、自分が幸せになれることをする。世界に目を向けると必然に偶然を織りなしていくことが自分を生かすことになる。それをみんなと一緒にやっつけていこう。地域の食べ物に女性がもっと関わっていい。その夢をかなえるには地域づくりを、と発展してきた。豊かな信州で暮らしたいと移住してきたが、美味しい野菜は、都会へ運ばれてしまう。自分たちで何とかしたいと思いいち上げたのが、「食と農のコラボレーション」のコラボ食堂。体にいいものを作りたいと地域の農業者と協同し、その食材がコラボ食堂運営を支え、生産者と町を結ぶフ

アーマーズマーケットエリア内フェアトレードで地産地消を進めている。たくさんの方々がそれぞれでメニューを作り出し、自分自身がオーナーになる。それを食べながら、商品になるか検討し合っている。それを深めているコミュニティレストランである。農村のコミュニティ加工所真田では自分たちが働きながら企画も立てる。農村型労働者協同組合は、福島県からの「3・11」被災者に農地を提供。人々の互恵ネットワークである。

この互恵型協同を地域の小さな力を集めて現在のグローバルイズムに対抗できるローカリゼーションに育てたい。

米田会長…地域に根ざす協同が平和の原点

人間の生きる権利とは、地域に根ざした日常のくらしが守られなければ実現しない。らいてうは第一次世界大戦とアジア・太平洋戦争を体験して、いのちを守るにはすべての戦争を止めさせることだと気が付いた。そのために意見が違っても平和のために協同しよう、と。「らいてうの家」を「平和・協同・自然のひろば」と名づけた意味があらためて確認できたと思う。

なお、オープニングには、らいてうの家を何回も訪問してくださっている中川美保さんのサクソフォン演奏があり、らいてうの家10周年にふさわしい美しい音色に一同うっとり聴き入りました。



(沓掛 美知子)

らいてうの家 10周年を祝う

フェスティバル・8月27日

昨夜の土砂降りを心配しつつ「家」に着くと前日庭にセットして帰ったテントの一つが、雨の重さに耐えかねて壊れてしまっていました。10周年を祝うために集まってくださるみなさんが楽しんでいただけるように、庭にも幾つか売店などを出すつもりで上田真田のスタッフが設置した物です。雨は降り続けています。しかし、そこは「らいてうの家」10年！の経験がものをいい、手際よく片付けられ、何もなかったようにみなさんが集まる時間になりました。



2016/08/27

雨降りにもかかわらず、たくさんのお客さんが訪れ盛大に、しかし落ち着いた時間がスタートしました。私は庭の担当だったのでしばらく外にいたのですが、大和田さんのフルートの透き通った音色が林に響き、しっとりとした10年のお祝いの会が始まったのがわかりました。雨の中で小鳥たちも聞き耳を立てていたかもしれません。次に聞こえて



2016/08/27

きたのは、「コーラス輪」の混成合唱。

賛美歌

からはじめ何曲かうたって頂きました。どれも素晴らしく、途中からホールにのぞきに行

ってしまつたくらいでした。ロフトホールからの歌声は家の中を包み込んでいました。観客のみなさんもゆったりとして聴いていらして、これららいてうさんがおっしゃっていた「気持ちのいい自由な休息所」がここにあると確信しました。誰でもが安らぎ、学び、交流する場に「らいてうの家」がなっていることに嬉しさを感じました。外に用意されたおやき、五目寿司、クッキー、モロコシも大盛況でした。和室でいただくお茶も格別でしたし、らいてうの家ならではの趣向が凝らされていました。

大勢の暖かい応援を受けて10年です。これからもよろしくお願いいたします。(小林 典子)

開催近づく

平塚らいてう生誕130年

記念シンポジウム

それぞれの言葉で語る「平和」から

わたしたちの現在(いま)を考える

参院選が終わった途端、改憲の動きが報じられるようになり、南スーダンPKOに派遣される自衛隊に新しい任務「駆けつけ警護」の訓練を始めます。でも、「戦争はさせない」「憲法を守れ」の声と行動は、引き続き全国に広がっています。らいてうのめざした「女性がつくる平和世界」を実現するための一人ひとりの行動が、今まさに問われています。

シンポのパネリストは、日本文化研究者のノーマ・フィールドさん(シカゴ在住)、憲法学者の青井未帆さん、米田佐代子会長の3人。

ノーマ・フィールドさんは2月に『日本プロレタリア文学選集』(英文)を編集、米国大統領選直後の来日となります。青井未帆さんは『憲法と政治』(岩波新書)を発表、改憲ノートの発言を続けています。米田会長は紀要9号に「今、らいてうを受け継ぐ」を執筆。それぞれの立場から、どのような言葉で、わたしたちの現在(いま)が語られるのか。ご参加のみなさまも、そこにぜひ加わってください。(実行委員会)

11月19日(土) 13時30分～16時30分
主婦会館プラザエフ(JR四ツ谷駅前) 7F
参加券(2000円)なるべく事前にお申し込みを。

紀要第9号が刊行されました



前号でお知らせした紀要第9号が刊行されました。

「今、らいてうを受け継ぐ

——平塚らいてう生誕130年、らいてうの家10周年にあたって」は、米田佐代子会長が記念事業の意義と取り組み、会の成り立ちと「らいてうの家」の建設過程や運営を改めて振り返ったものです。大國の対立のなかで日本が「戦争する国」への道を歩こうとしている時代にあつて、らいてうをどのように再発見し語るべきか、検討されています。また、らいてうの遺品の中から新たに見つかった資料を読み解き、らいてうにとつての自然、戦後の再生につながる視点や、らいてう独自の平和思想への深い考察が含まれています。

村さんは興味深い考察をされています。「女の平和」呼びかけ人の横湯園子さんは「なぜ『女の平和』なのか」という文を寄稿してくださいました。平和憲法のもと平和が守られてきた日本をアメリカといっしょに「戦争ができる国」に変えようと言われていることに悩んだ横湯さんは、ある日「女の平和」という言葉に気づきます。「女の平和」国会ヒューマンチェインは全国へ広がり、各地で集会、デモが行われ、怒りの赤、情熱の赤、エネルギーの源の赤を身にまとった女性たちが意思表示をしています。

「安保理決議1325」「女性・平和・安全保障」と日本の行動計画策定をめぐる」は、堀江ゆり副会長が決議の内容、意義と日本の行動計画策定をめぐる動き、「女性がつくる平和世界」との関連について考察したものです。

折井美耶子副会長による「選択的夫婦別姓——最高裁判決を受けて」は、昨年12月に最高裁が夫婦別姓を認めない民法の規定を合憲とした判決を受けて、戸籍制度や「家」制度、裁判の過程と判決の反響について解説しています。

昨年のらいてう講座「戦争しないで平和をつくる道——憲法の初心にもどる」の記録も全文収録しています。

なお、NHKのドラマ『とと姉ちゃん』に登場した「ゴマじるこの作り方」(『美しい暮しの手帖』1949年)は、紀要5号に掲載されています。「こまかなことは、作りながらごめいめで、ご工夫ください」というらいてうらしい一文で締めくくられています。

(飯村 しのぶ)

【事務局日誌】

- 7月12日 紀要編集会議
- 7月28日 午前 らいてう資料説明会
午後 第3回理事会開催
- 7月30日 紀要第9号発行
- 8月4日 HJアセットマネージメント社が事務所に来訪、あずまや高原にソーラーパネル設置について説明
- 8月7日 高原自治会懇親会に米田会長出席
午後 HJ社地元望月さんに説明
自治会運営委員も同席
- 8月8日 長野医療生協が「家」へニュース取材
- 8月10日 ソーラーパネル設置予定地に告知用看板設置される
- 8月19日 環境省役人が非公式に現地視察
- 8月27日 オープン10周年記念「らいてうの家」フェスティバル開催 参加者170名
(東京より21名参加)
- 8月28日 真田公民館でシンポジウム開催
約500名参加
- 8月29日 野沢ホスピタリティオーナーが挨拶
に伺いたいと事務所に来訪
- 9月7日 第1回常任理事会
- 9月12日 らいてう特別講座 NHK朝ドラ登場の「平塚らいてう」ってどんな人
講師米田館長(於らいてうの家)
- 9月17日 らいてう講座 紫式部からのメッセージ
ジ 宮島満里子さん(於らいてうの家)
- 9月23日 第4回理事会開催